

九州観光ビジネスプランコンテスト 2023

事業計画書

提出日 2023 年 10 月 31 日

学 校 名	九州産業大学		
学部・学科名	地域共創学部・観光学科		
チ ャーム 名 (個人参加の場合は任意)	あまおう	エントリーNo.	42
フリガナ:			
代表者氏名:			
携帯電話番号		E-mail	
チームの紹介(任意項目) イチゴといえば、あまおうってすぐ思い浮かぶぐらいとても人気で、福岡でしか栽培していないフルーツです。イチゴだけではなく、これからも福岡、それから九州の特産をより多くのお客様に知ってもらえるよう、その想いを込めて、こちらの九州ビジネスプランコンテストにご出席させていただきます。			
1. 取り組みテーマについて(なぜこのテーマに取り組んだのか) ・現状および課題認識 - 海外において、九州のブランドイメージが定着しておらず、東京や大阪と比べて旅行客数が少ない現状がある。 - 外国人が日本に来る目的は主に日本の文化体験や和食を食いたいという調査がある。また、文化体験などのイベント事が少ない為、触れることが少ない現状である。(出所:IT media) - 一方、日本人は英語を実際に使うことが少ないと同時に、外国の料理に興味があるので、外国人と日本人のニーズをマッチングし、セルフキッチンというビジネスモデルを考えた。			
2. 課題解決に向けた新たなアイデアについて - 日本ヘリピーターの観光客をターゲットにし、セルフキッチンは異文化体験、外国語体験を中心として、参加者同士で自由に会話をしながら、九州の食材を使って料理を作ってもらう。 - その他にも、キッチンの食材を使って、一緒に料理を作って食べたいという団体(家族、カップル、友人など)でも大歓迎である。 - セルフキッチンを通して、参加者の皆さん同士で国際的な友達を気軽に作ることができ、自分の言語力を高めることができる。 - 参加者は非日常体験を、このセルフキッチンで気軽にすることができる。 - 子供を国際的な体験をさせたいという親が居たら、このセルフキッチンでは可能である。 - 料理を一緒にしたいが、自分の家に招き入れて行うのに抵抗があるという方もセルフキッチンを利用することで、一緒に作ることができる。 - 場所は博多駅周辺のレンタルキッチンを使用し、ホームページとweb 広告を使用する。最初は自分たちで運営し軌道に乗ると企業に売却する。			

3. 九州や地域社会への影響について

・新たなアイデアが九州や地域に及ぼす効果(誘客、活性化等)はどうか。

- セルフキッチンでは動画発信や SNS 活動を通して、九州の認知度を高めることが期待できる。
- 日本の文化や和食の体験をしたいと思う観光客を集客することができる。
- 子供たちに国際体験をさせることによって、外国人、ハーフなどの概念に触れ、いじめ、差別のような社会問題が軽減することを期待できると考える。

4. 事業化に向けたビジネスモデルについての具体的な紹介

・商品・サービス・ノウハウなどを分かりやすくご説明ください。

・「事業収入(提供金額)」「費用(事業コスト)」「告知手法」等を可能な限り記述してください。

- 食材は九州の企業や農家などから提供してもらい、食費を含めた 2500 円という参加費とする。
- 告知手法は動画発信や SNS 活動する予定である。
- その土地独自の料理の作り方や味付けのノウハウを料理者は提供し、体験者はその土地に行けないと知らなかったことを知ることができ、本格的な料理を習得することができる。

5. 事業化後の目標、継続可能性や将来のイメージなどについて

- このようなセルフキッチンはチェーン店として、全国に広げていけたらと考える。
- 九州の特産を使用することによって、九州ブランドの認知度が高まり、将来的にどこでも九州の特産を並べるようなイメージがある。
- これからも外国人が増えつつあり、異文化体験や交流などといったニーズが大きくなっていくため、セルフキッチンというビジネスモデルが大きくなっていくだろう。

<記入上の注意>

- ・各項目の文字数の制限はありませんが、計画書全体で最大A4用紙片面3枚以内に収めてください。
 - ・各項目の詳細説明のため概要図・グラフ・画像などの挿入や添付も可と致します。
- なお、解像度に画像が荒くなる場合がありますので、使用するフォントや写真等には留意下さい。